

①編修趣意書（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-116	高等学校	国語科	国語総合	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	国総・338	精選国語総合 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

この教科書は、平成二十一年三月九日付文部科学省告示第三十四号「高等学校学習指導要領」に基づいて、高等学校国語科「国語総合」の教科書として編修したものです。今回の「国語総合」教科書の編集にあたりとりわけ留意したのは、以下の点です。

1 多様な価値観が入り乱れる国際化時代に、自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくむ国語の力を育成する。

高度に情報化された現代社会では、さまざまな情報が世界的規模で飛び交っています。そこに見られる複雑多様な現象に流されることなく、自ら学び自ら考える意欲をもって主体的に生きる力を生徒たち一人一人につけさせることは、すべての教科に共通する目的です。とりわけ国語科は、人間の言語活動を対象とする基本教科です。そうした観点からこの教科書では、特にことばを通して現実をみつめ、主体的に生き、伝え合う力を高めて、二十一世紀における新たな日本を切り開くことのできる国語の力を育成することを、第一のねらいとしました。これこそ、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を高めるための基本的な力といえるでしょう。

2 日本の言語文化の伝統を受け継ぎ、豊かな文化環境を創造する。

高校生の言語生活をより豊かなものにしてゆくためには、日本の言語文化の歴史と伝統に対する認識を高め、その今日的意義を知って現実の言語生活に生かしてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味、関心を引き、学習意欲を喚起できる豊かな価値を有する内容をとりそろえるよう、格別の配慮をしました。

3 さまざまなものの見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的にとらえることのできる、幅広い人間性、豊かな感性を育てる。

国語科が対象とする内容には、きわめて多様な広がりがあります。国際的な高度情報化社会の到来の一方、国内では人口構成や産業構造の変化による、社会意識や生活意識の多様化などさまざまな問題が起こっています。こうした現実に対処するためには、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を全体的にとらえる必要があります。この教科書では、そうした観点から理解力と表現力を有機的に関連づけ、総合的な国語力を身につかせ、幅広い人間性、豊かな感性を育てることを意図しました。

4 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという作業は、相手を理解することであると同時に自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、話す・書くの領域における表現活動と、聞く・読むの領域における理解活動とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。この教科書では、表現、理解それぞれ独自の学習の場を設定していますが、それぞれの学習の場において、生徒たちの活発な学習活動を促し、話す・聞く、書く、読むすべての活動領域にわたる言語能力を高めるよう配慮しました。

5 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

この教科書では、国語科における言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習指導に特に留意し

ました。巻頭に、古典から近代、現代へと著名な文章を並べた「日本語の響き」を配置し、国語学習の導入としました。現代文編では、「表現」の部分で国語の知識について体系的に整理すると同時に、各教材の「学習の手引き」の後に「言葉と表現」の項をたてて、綿密な学習指導を期待しています。古文編、漢文編においては、古文、漢文それぞれに、文法、句形、修辞等古典学習に必須の事柄を教材間に配置し、全体として、国語の知識を体系化し、言語についての知識が整理できるよう工夫してあります。

2. 編修の基本方針

教育基本法第二条に示されている教育の目標をふまえ、教材の選定・作成および構成・配列について、以下の点を基本方針としました。

- 1 現代に生きる人間として、生徒たちが自らの思考力、認識力を高め、人生、社会、言語について思いを深めることができる教材を精選する。
- 2 人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品を教材化し、感受性・創造力を高めることができるよう配慮する。
- 3 日本の言語文化の諸相を幅広く取り上げ、さまざまな角度から言語文化の諸側面にふれ、日本の伝統文化にふれることができるよう配慮する。
- 4 日常生活において、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選する。
- 5 体系的な知識の習得と生徒の自発的・継続的な学習の流れに配慮して構成・配列を工夫する。

3. 対照表

図書の構成・内容(教材名)	特に意を用いた点や特色 (〈〉内は教育基本法からの引用)	該当箇所
水の東西	水の扱いを例に東西文化の違いを論じた文章を読んで、各国の伝統や文化に対する興味や関心を深めることを目指した。【第五号〈伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。〉】	P. 44～49
言語は色眼鏡である	異文化への寛容な態度こそ世界平和の礎となると論じる文章を読んで、日本の文化を愛するとともに他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した。【第五号〈伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。〉】	p. 51～59
自然をめぐる合意の設計	自然と人間との関係について論じた文章を読んで、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した。【第四号〈生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。〉】	P. 60～65
I was born	自らの誕生と引き替えに亡くなった母と「I was born」が受身形であることとのつながりへの気づきを描いた詩を読んで、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した。【第四号〈生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。〉】	P. 73～75

情報と身体	現代社会における「情報」について論じた文章を読んで、広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを目指した。【第一号<幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	P. 100~105
「もの」の科学から「こと」の科学へ	二十世紀から二十一世紀へ、科学のあり方の変容を論じた文章を読んで、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを目指した。【第一号<幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	P. 106~111
コインは円形か	コインの形は見る角度によって変わることを例に挙げて認識の問題を論じた文章を読んで、文化や環境について多角的に考え、幅広い知識と教養を身につけることを目指した。【第一号<幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	P. 112~119
空缶	被爆体験と被爆者のその後の人生を描いた小説を読んで、生命を尊び、平和を愛する心を養うことを目指した。【第四号<生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。>】	P. 148~163
なぜ私たちは労働するのか	現代の若者の労働についての文章を読んで、勤労の意味や価値について考えを深めることを目指した。【第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。>】	P. 166~171
命は誰のものなのか	安楽死をめぐるさまざまな議論を紹介した文章を読んで、幅広い知識と教養を身につけるとともに、「命」に対する著者の考え方に触れ、真理を求める態度や道徳心を培うことを目指した。【第一号<幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	P. 172~177
創造力のゆくえ	新旧の文化における創造力のゆくえを論じた文章を読んで、個人の価値や能力を尊重し、自主自律の精神を養うことを目指した。 【第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。>】	P. 178~185
話し合いをする	読んでもらいたい本を発表し合う活動とおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した。【第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。>】	P. 190~191
意見文を書く	新聞の投書を読み、それを参考にして投書の文章を書くという活動とおして、社会との関わりを意識し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うことを目指した。【第三号<正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。>】	P. 206~209
漢文の世界へ	漢文の受容やその歴史について学ぶことの意味を述べた文章を読んで、伝統と文化を尊重し、国と郷土を愛する精神を養うことを目指した。【第五号<伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。>】	P. 300~301

<p>古典を読むということ</p>	<p>古典を読むこと、学ぶことの意味を述べた文章を読んで、古典の世界への興味関心を広げ、伝統と文化を尊重し、国と郷土を愛する精神を養うことを目指した。【第五号<伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。>】</p>	<p>P. 350～353</p>
<p>古典の扉</p>	<p>古典に関する知識を深めたり、現代との関わりを考えたりする文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、国と郷土を愛する精神を養うことを目指した。【第五号<伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。>】</p>	<p>P. 249, 261, 273, 281, 298, 311, 318～319, 337, 343, 349</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

上記の記載以外では、特に以下の点に意を用いました。

- ・学校教育法第五十一条二号の「一般的な教養を高め」る目標に供するために、巻末や見返しに古典に関するカラー資料を豊富に掲載するとともに、コラム「古典の扉」において、伝統的な文化についての知識を広げる機会を多く設けました。
- ・学校教育法第五十一条三号の「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養う」目標に供するために、現代文編に教材と関連した多様な書籍を紹介する「読書の扉」を設けました。
- ・学校教育法第三十条第二項の「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」目標に供するため、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」の各教材においては、段階的に手順を示し、学習者が主体的に活動に取り組めるように配慮しました。また、「C 読むこと」の「学習の手引き」では、問いを段階的に設定し、A・Bと同様に学習者の主体的な学習を促すとともに、現代文編では読んだことを表現につなげる「言葉と表現」や、単元末に「読解から表現へ」を設けて、表現力を養うことに意を用いました。

①編修趣意書（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-116	高等学校	国語科	国語総合	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	国総・338	精選国語総合 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

（1）教材選定と作成の基本方針

1 日常生活における言語活動の活発化を目指し，基礎，基本の充実を目指した教材

教材の選定，教材化に当たっては，中学校国語科における学習の成果をふまえて，高校生として望ましい国語の力をつけ，日常生活における言語活動を活発化できるよう，発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。特に古文編，漢文編に関しては，入門期であることをふまえ，興味をもって学習し一層の発展が期待できるよう，特別に工夫を凝らしました。

2 生徒の思考力や論理性の育成に寄与し，現代社会の問題を主体的に考えることができる，客観的価値の高い教材

現代に生きる人間として，生徒たちが自らの思考力，認識力を高め，さまざまな角度から問題を取り上げ，ことさらに論理的に把握し，人生，社会，言語について思いを深めることができる教材を精選しました。

3 感性豊かに人間の姿や心情を描いた，想像力を刺激する魅力あふれる教材

人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品の教材化により，伝統的な精神文化を実感し，感受性を高めることのできる作品を選びました。

4 言語文化についての知識を広げ，伝統的な日本の文化を実感することのできる教材

日本の言語文化の諸相を幅広く取り上げ，さまざまな角度から言語文化の諸側面にふれ，日本の伝統文化にふれることができるよう配慮しました。特に，古典の現代的意義を日常の言語活動に即して把握できるよう，読みなどの音声的側面や，古典作品と現代文とのつながりにも配慮しました。

5 バランスよく配置された，定評ある教材と清新な現代的话题の教材

現代文，古文，漢文すべてに，従来から教材化されて定評のある作品を機軸としながら，現代的话题に満ちた清新な作品を教材化して，生徒の興味を喚起できるように配置しました。

6 多様な表現活動に即した，具体的，実践的な学習教材

日常生活において，適切に表現する能力を育成し，伝え合う力を高め，必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。スピーチや討論，調査や報告，手紙や投書など，多様な表現活動の場に即した，社会生活につながる実用性に富んだ表現活動例を，体系的に段階を追って配しました。その際，そうした活動を支えるための，図書館を利用した情報収集，コンピュータや情報通信ネットワークの活用にも配慮して総合的な学習ができるよう工夫してあります。単に文例や模範文を示すのではなく，表現活動の具体的な展開を教室での実践に即した形で提示することによって，生徒が主体的に表現学習に取り組めるようにしました。

（2）構成と配列の基本方針

国語を総合的に学習する国語総合の性格をふまえ，一つ一つの教材の価値を大切に，体系的な知識の習得と生徒の自発的・継続的な学習の流れを保障するため，この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

学習の流れを重視し，全体を，現代文編，古文編，漢文編の三部構成としました。

はじめに「日本語の響き」を置き，日本語の響きの美しさに注目し，音読（朗読）を通して国語学習への導入を図るとともに，さまざまな時代の著名な文章を比べて読み，内容や表現の仕方について考える場を設定しました。

現代文編では，教材の精選を図るとともに，「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質」を相互に関連させるための学習課題を随所に配置しました。また，現代文編の最後に表現学習の必須事

項をまとめて配置し、生徒の学校生活、日常生活に即した表現学習の充実を図りました。

古文編、漢文編では、文法や句形など古典の基本事項を解説するとともに、適所にコラムを配置し古典世界への導入を図りました。教材においては、素材の特質と学習進度を考慮しつつ精選しました。古文編、漢文編ともに全体として学習量の拡充を目指しました。

2 「話すこと・聞くこと」「書くこと」

生徒の学校生活、日常生活に即した表現活動を設定し、現代文編の最後に「表現」としてまとめて配置しました。重点を置く指導事項ごとにまとめ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の順に教材を配置しています。また、時宜にかなった表現活動ができるように、現代文編の単元や教材の内容と有機的に関連づけた「読解から表現へ」を配置し、現代文編最後の「表現」中の関連ページへのリンクを示して学習の重層化を図りました。さらに現代文編、古文編、漢文編ともに、「学習の手引き」などの課題をとおして、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質」のそれぞれを密接に関連させながら学習することで、総合的な言語能力を身につけられるように配慮しました。

3 「読むこと」

①現代文編について

教材をそれぞれのジャンルの特徴がはっきり理解できるよう位置づけると同時に、一つ一つの教材に独立性をもたせて、生徒たちが作品のもつ主題や文体に自由に迫ることができるようにしました。教材の配列は、生徒の学習意欲を高め興味をもって取り組めるよう変化に富むものとししました。また、学習者の発達段階に合わせて、平易なもの・親しみやすいものから、次第に程度の高いものへと進むよう、配列の順序には特別に配慮しました。さらに、近代小説のひとつには、本文の内容に即して「続きの物語」を作る課題を設定し、作品の読みを深めることを目指しました。加えて各教材ごとに「読書の扉」を設けて、読みを深めるとともに、読書指導への展望を示唆しました。

②古文編・漢文編について

現代につながる古典という観点から、生徒たちが容易にその世界になじみ、興味と関心をもつことができるような教材を選定しました。また、生徒の発達段階に即した、話題性に富む作品を精選し、挿絵や写真などを利用して、視覚的な面からも理解を深めることができるよう配慮しました。また、古典学習の入門については、生徒が学習に躓かないように工夫しました。例えば文法や句法などの基本事項を解説するとともに、随所に配置したコラムによって古典理解を助けることを企図しました。加えて「古典を読むということ」という現代評論を配置して、古典への興味を喚起するとともに、現代文とのつながりについても幅広い理解ができるよう配慮しました。さらに、漢文作品のひとつを選んで現代を舞台にした物語に書き換える課題を設定して、さまざまな時代の人々のものの見方、感じ方、考え方についての理解を一層深めることができるよう配慮しました。

4 「伝統的な言語文化と国語の特質」

伝統的な言語文化についての生徒の関心を広げ、国語の特質に対する理解を深めるために、さまざまな工夫を凝らしました。古文編、漢文編で、それぞれコラムによる取り立て学習を配置したほか、表現活動の場においては、音声、文字、それぞれに即した注意点を具体的に示しました。さらに、それぞれの教材に、「学習の手引き」「言葉と表現」「脚注」「脚問」、語彙・漢字の取り立てなどによる、ことばの体系的学習指導を目指すなど、総合的な国語の運用能力の向上を図るため、特に配慮してあります。

5 学習指導についての配慮

①学習の手引き……各教材の末尾に設け、内容を理解するための項目、その理解を高め発展させる活動を、問いや作業の示唆の形で適宜盛り込みました。

②言葉と表現……教材中の言葉や表現に着目し、表現力を高めるための課題や活動を設定しました。

③漢字……常用漢字の習得のために、教材中の注意すべき漢字を選び掲載しました。

④脚注……現代文編では、生徒の学力を考慮し、自発的学習を促すためにも、生徒が容易に調べられるものや文脈で理解できるものは除き、必要最小限のものにとどめました。古文編、漢文編の場合は、読みの抵抗を少なくするために、適宜平明かつ簡潔な解説をほどこしました。

⑤語句・句法……現代文編では、教材の中から語彙を広げる上で注意すべき語句や慣用句を選び出し、本文中に「*」印を付して、見開きごとにまとめて脚注欄に示しました。生徒が習得し、日常の使用に利することが望ましいものを、生徒の語彙力を十分に考慮して選んであります。古文編では、古文理解の上で基礎となると思われる古今異義語を中心に、漢文編では、漢文理解の基礎となる基本的な句法について、本文中に「*」印をつけて脚注欄に掲げました。

⑥脚問……「▼」印を用いて、脚注欄に据えました。「脚問」は「学習の手引き」と有機的に関連させてありますが、

読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることをないように配慮しました。

6 用字・用語・表記について

①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。

②常用漢字以外の漢字については、原則として本文教材ごとの初出に振り仮名をつけました。

③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。

④仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとしました。振り仮名も同様です。

⑤詩歌教材・小説教材など形象性の強い作品の表記は、原則として原典および原作者の求める表記に従いました。また古典教材については、生徒の発達段階を考慮して用字・句読点などに適切な工夫を凝らしました。

⑥外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

7 写真・挿絵・図版などについて

教材の読解や鑑賞の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

8 付録・その他

付録は必要性和有用性、見やすさ・理解しやすさ・利用しやすさに配慮して、読解・鑑賞・調査・発展学習などのために、工夫して掲載しました。巻末部に「常用漢字表・付表」「古典文法要覧」「古典文学史年表」「漢文の基本形式」「漢文参考略年表」を、資料として「古時刻・古方位ほか」「装束」「住居・調度」「平安京条坊図ほか」「京都付近図ほか」などの付録を付しました。さらに巻末折込み別表として「近現代文学史年表」を付しました。見返しは、前見返しに「旧国名・都道府県名対照図」を、後見返しに「中国参考地図」を入れました。いずれもこの教科書で学習する上で必要不可欠なものを精選しました。

2. 対照表

図書の構成・内容(教材名)	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
日本語の響き	読むア 言語活動例工	前見返し裏～前別丁4	1
ぐうぜん、うたがう、読書のススメ	読むア・オ 言語活動例工	P.10～16	1
「待つ」ということ	読むア・オ 言語活動例工	P.17～21	1
羅生門	読むア・ウ 言語活動例ア	P.22～35	4
ゴール	読むア・ウ 言語活動例工	P.36～41	2
読解から表現へ① 引用	書くウ 言語活動例イ	P.42	1
水の東西	読むイ・エ 言語活動例イ	P.44～49	3
読解から表現へ② 比較	話す・聞くア 言語活動例イ	P.50	1
言語は色眼鏡である	読むイ・エ 言語活動例イ	P.51～59	3
自然をめぐる合意の設計	読むイ・エ 言語活動例イ	P.60～65	2
読解から表現へ③ 要約	書くイ 言語活動例イ	P.66	2
詩	読むア・ウ 言語活動例工	P.68～78	2
読解から表現へ④ 調査	話す・聞くイ 言語活動例イ	P.79	1
清兵衛と瓢箪	読むア・ウ 言語活動例工	P.80～88	3
青が消える	読むア・ウ 言語活動例工	P.89～97	2
読解から表現へ⑤ レトリック	書くア 言語活動例ア	P.98	1
情報と身体	読むイ・エ 言語活動例イ	P.100～105	2
「もの」の科学から「こと」の科学へ	読むイ・エ 言語活動例イ	P.106～111	2
コインは円形か	読むイ・エ 言語活動例イ	P.112～119	2
読解から表現へ⑥ 論理構成	書くイ 言語活動例イ	P.120	1
その子二十——短歌十六首	読むア・ウ 言語活動例工	P.122～127	1

いくたびも——俳句十六句	読むア・ウ 言語活動例エ	P.128～132	1
読解から表現へ⑦ オリジナリティー	書くア 言語活動例ア	P.133	2
なめとこ山の熊	読むア・ウ 言語活動例エ	P.136～147	3
空缶	読むア・ウ 言語活動例エ	P.148～163	3
読解から表現へ⑧ 推敲	書くエ 言語活動例ウ	P.164	1
なぜ私たちは労働するのか	読むイ・エ 言語活動例イ	P.166～171	2
命は誰のものなのか	読むイ・エ 言語活動例イ	P.172～177	2
創造力のゆくえ	読むイ・エ 言語活動例イ	P.178～185	3
読解から表現へ⑨ 小論文を書く	書くイ 言語活動例イ	P.186	3
表現1 スピーチをする 対話型スピーチ	話す・聞くア・イ 言語活動例ア	P.188～189	2
表現2 話し合いをする ビブリオバトル	話す・聞くウ・エ 言語活動例ウ	P.190～191	4
表現3 プレゼンテーションをする 五枚のフリップを使って	話す・聞くイ・エ 言語活動例イ	P.192～194	4
表現4 ディベートをする マイクロディベート	話す・聞くウ・エ 言語活動例ウ	P.195～197	4
表現5 随筆を書く 一枚の写真から	書くア・ウ 言語活動例ア	P.198～199	4
表現6 手紙を書く 依頼の手紙	書くア・ウ 言語活動例ウ	P.200～201	4
表現7 レポートを書く 見取り図をもとにして	書くイ・エ 言語活動例イ	P.202～205	6
表現8 意見文を書く 新聞投書	書くイ・エ 言語活動例イ	P.206～209	6
表現9 情報を読む 統計資料の読み方・扱い方	読むオ 言語活動例イ	P.210～211	1
表現10 広告を読む 実用的な文章	読むオ 言語活動例ウ	P.212～213	1
現代評論を読むために	読むオ	P.214	
読書の扉	読むオ	P.16,21,43,67,99, 121,134～135, 165,187	
古文入門	読むイ	P. 216～217, 220～221, 226～228	3
竹取物語	読むイ 言語活動例イ	P.232～235	3
伊勢物語	読むウ 言語活動例イ	P.236～243	3
徒然草	読むイ 言語活動例イ	P.250～259	3
万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	読むウ 言語活動例エ	P.262～270	2
土佐日記	読むウ 言語活動例エ	P.274～280	3
平家物語	読むア 言語活動例エ	P.282～290	3
奥の細道	読むウ 言語活動例エ	P.293～297	3
漢文入門	読むイ	P.300～310	3
故事成語	読むイ 言語活動例イ	P.312～317	3
漢詩	読むウ 言語活動例エ	P.320～327	3
史話	読むウ 言語活動例エ	P.330～336	4
論語・孟子	読むイ 言語活動例イ	P.338～342	3
雑説	読むイ 言語活動例ア	P.344～345	3
復活	読むイ 言語活動例ア	P.346～348	3
古典を読むということ	読むエ・オ	P.350～353	1
文法から解釈へ①～⑥	伝国ア(ア)	P.218,222,229,244, 260,291	
古文を読むために①～⑦	伝国ア(イ)	P.219,223～225,	

漢詩の表現		230～231, 245～247,248, 271～272,292, 328～329	
古典の扉	伝国ア(ア)	P.249,261,273,281, 298,311, 318～319,337, 343,349	
現代文編【C読むこと】の各教材	伝国イ(ア)・イ(イ)・ウ(ア)		
古典編【C読むこと】の各教材	伝国ア(ア)・ア(イ)		
現代文編【A話すこと・聞くこと】【B書くこと】の各教材	伝国イ(ア)・イ(イ)		
		計	140

学習指導要領「国語総合」の内容

<話すこと・聞くこと>

- ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。
- エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

言語活動例

- ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。
- イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。
- ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話し合いや討論などを行うこと。

<書くこと>

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。
- イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。
- エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

言語活動例

- ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。
- イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。
- ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。

<読むこと>

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
- オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

言語活動例

- ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。
- ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。
- エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

- ア 伝統的な言語文化に関する事項
 - (7) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。
 - (4) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。
- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 - (7) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。
 - (4) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。
- ウ 漢字に関する事項
 - (7) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。